

2022年6月28日

ミス・パリ エステティック専門学校 学校関係者評価報告書

ミス・パリ エステティック専門学校
校長 三浦 スミエ

学校法人ミスパリ学園 ミス・パリ エステティック専門学校 学校関係者評価委員会は
2021年度（令和3年度）自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施致しましたので、
以下のとおり報告致します。

1. 開催日時：2022年6月28日 13：00～16：00
2. 場 所：ミス・パリ エステティック専門学校
3. 参加者

学校関係者評価委員

平山 浩篤 (株式会社シェイプアップハウス 取締役)
(学校法人ミスパリ学園評議員)

杉原 昭二 (学校法人ミスパリ学園理事、評議員)

須賀谷 映子 (NPO法人日本スパ・ウェルネス協会 教育委員長)
(学校法人ミスパリ学園評議員)

越川 治枝 (株式会社シェイプアップハウス 教育部 部長)

事務局 三浦 スミエ (ミス・パリ エステティック専門学校 校長)

大平 愛 (ミス・パリ エステティック専門学校 副校長)

田垣 真 (ミス・パリ エステティック専門学校 教育課)

陪 席 東 千晶 (株式会社シェイプアップハウス 人事部 部長)

中澤 健太郎 (ミス・パリ・ビューティ専門学校 教育課 課長)

加納 倫一 (ミス・パリ・ビューティ専門学校 大宮校 教育課 課長)

4. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見

① 学生アンケートにおける改善点及び改善策

【現状】

本校では、授業・講師の質向上を目的とした在校生対象の無記名による『授業アンケート』を年2回（7月・2月）実施し、点数での評価と記述式回答の結果を分析し、課題を抽出している。

全体の学生満足度を点数で評価すると各講師の結果が90%以上であった。本校では、特に、記述式の回答を重要視しており、授業に対する学生の希望や問題点を把握し、改善に取り組んでいる。

また、アンケートの集計結果を元に学校長と講師の面談を年2回実施し、個々の改善点について話し合いを行い、改善に向けての対策や進捗状況を常に確認している。

年に3回（8月・12月・3月）実施している講師研修では、学生への声掛けや表現力を高める研修など、授業アンケートからの問題点を改善する研修を行い、課題改善と指導法などの意識統一を図っている。更に、学年ミーティングを実施し、毎月の職員会議において現状報告を行っている。

.....

② 自己評価の理由

【現状】

2021年度の自己評価では、学校運営、教育活動の項目において前年度と比べ評価が下がっている。

授業計画、人員確保、授業内容の共有の項目においては、新型コロナウイルス感染症の対策により、安心・安全に授業を実施するための分散授業の実施が起因していると考えられる。教室の使用人数を減らすことで各講師が連携した授業の実施回数が減少し、講師間での情報共有の機会を別途設ける必要があり、授業以外の業務の増加により講師への負担が多くなった。

各講師のレベルアップも必要となり、学内でリカレント教育を行う機会を増やし、学生に寄り添える対応ができるよう「傾聴」や「表現力」の研修を強化した。今後は、十分に学生への指導ができるよう計画的な人員の確保の検討が必要であると同時に、オンライン授業の環境を整え、オンラインコンテンツの強化と対面授業を効率良く活用できるよう授業計画を立てることとする。

インターンシップの項目においては、コロナ禍で実施できていない状況ではあるが、実際にそれぞれの業界で活躍する講師と契約し、現場に即した指導や業界の最新情報を授業の中で学びながら職業選択について考える機会を確保している。

学生の募集活動では、コロナ禍への対策を講じた上で、例年通りオープンキャンパスを実施できたことで、計画と成果の項目において評価があがっている。学生募集においてもSNSの利用やオンラインによるオープンキャンパスなどオンラインコンテンツを増やし、定員達成を目指す。

委員より

- ・ベテラン講師は、実社会に触れる機会が少なくなることから、振り返りの機会・勉強となるリカレント教育は、評価できる。継続的な実施をお願いしたい。

.....

③ 重点的に取り組む施策

引き続き、授業アンケートを重要視し、学生の本校の教育に対し、何を望んでいるのかについての方向性を読み取り、学校運営を行う。

本校では、文部科学省が2017年3月に発表している『これからの専修学校教育のありかたについて』をもとに講師、学生の指導を行っている。同発表内容の①には、「社会性や人間性を育み、自立した人間を育てることが重要である」とあり、特に、この部分を重要視し、アクティブラーニングを実施することにより、学生の声を引き出す授業を行い、人間力を高め、自立した学生が社会で活躍できるように育てる、ことを目標としている。そのためには、講師研修を重ね、講師のレベルアップに力を入れることとする。

5. 全体総括

今回の評価委員会では、授業アンケートの活用について、在学生に対しての満足度に加え、進級率、卒業率の向上に繋がられるよう多方面からの検討が必要であるとの指摘を受けた。また、就職後に自ら気づき、動ける自立した学生の育成についても課題であることから、本校では、引き続き、講師のレベルアップを図り、即戦力となる学生を1人でも多く輩出できるよう教職員一同、認識を一致させ、誰もが憧れる名門校を目指し、精進したい。

以上